

何をすればいいかわからない中で、全部自分たちが作れる面白さがあり立命館守山を選びました。

語り手 古藤諒(高校一期生 医療系) 聞き手 浅井優

*

高校生時代の総団長の経験

在学中のエピソードでしたっけ。体育祭の話とかですかね。

—はい、そうです。

そうですね。今は、多分、体育祭は綺麗なグラウンドがあるのは、当たり前なのかな。当時、私が高三になった時は、どこでやりましたっけ、目の前のグラウンドが土やったんかな。今は、芝生ですよ。

—そうですね。人工芝。

人工芝ですか。私たちの時は、人工芝でもなくて。自分たちが一期生で、先輩たち(二、三年生)は全員女子校でしたから、高三になって、立命館守山高校生だけだっという印象で残ってたし、自分たちが高三っというのもあったんで。大学に行ったら学園祭がありますけど、体育祭はないから、それなりにモチベーションが高かったのかなと。あと、在学中のエピソードとしては、部活動ですかね。私は、バスケットボール部だったんで。それこそ今もいるはず小森先生とか。川端先生も多分いらっしやる。あれ、今は違って、変わったんかな。

—すみません。バスケ部のことあんまり詳しくなくて。

いえ、全然大丈夫です。体育祭に話を戻すと、たまたまバスケ部の同期で、各団の団長を、当時、六クラスあって、四、五クラス全員バスケ部で揃えて。それで、ノリで、じゃあ私、総団長やりますって立候補しました。団長全員のモチベーションも結構高かった。で、やっぱ他の立

命館とか立宇治とか、附属高校はもちろん、他の周りの高校でいえば、守北、守高、野洲高も含めて、どういう体育祭してるかっていうのは、勝手に話が入ってきますから、それなりに、和気あいあい楽しくやれるんかな、と思ってたんですよ。そしたら、まず最初に言われたのが、体育祭を、運動能力を測るような競技会にするか悩んでるって言われて。

「いやいや、それは楽しくないでしょう」という話になり、当時の先生方と話し合った記憶がありますね。結果的に、体育祭という形になったと記憶してます。楽しさも残さないと、学生の立場からすると他校の話も聞いているので、ただの競技会として、記録がいいことが、私たちの目的ではないからっという話をしました。別に先生方はどちらでも良かったかもしれないですけど、私たちのやりたいことも言って伝えたっという、その時は目線も合って、折り合いがついたって思ったんですよ。

体育祭当日、なんか、自分の団の二年生の子が泣いてるという話を聞いたんですよ。これは、もう忘れもしない。なんで泣いてるんやろうと思って聞いたら、女の子が、髪型をコーンロウのように結んでたから、それを、ある先生に「そんな髪型、外しなさい」って言われて、めちゃくちゃ揉めて。「今すぐ外せ」とか言われて泣いてるのを見ていると、公序良俗を逸脱している訳でもなく、楽しいはずの体育祭なのに、おかしいという気持ちから先生方と意見のぶつかり合いになった。当時、競技中だったんですけど、校長先生や教頭先生、来賓の方が座ってる席に、「この状況、おかしくないですか」って直談判しに行きました。「いや、今はそんなことを話す時間じゃない。」って、やっぱ、少し合いになって。五分ぐらい揉めて、全ての競技が止まって。最終的に、当時の担任の森園先生が来てくれて、色々話を聞いてもらって、全

員が髪を外す事態にはならなかったです。ただ、話を聞いてもらえた記憶は何もなくて。一部の先生や学生からも、「別にコーンロウしたからといって。別に、何かが乱れるわけでもない」とか、「シャツの下を結んだりすることで、なんか変わるんですか。他の高校もやっているのに、なぜダメかがわからない。」ってなつて、結局そのまま続けさせてもらえました。今となって思えば、無鉄砲なことをやっているとはいえませんが、自分としては、せっかく高校三年生の時の体育祭を楽しく終わるはずやったのに、少なくとも後輩の子が泣いてるとかつてのは、総団長の立場として、悔しかった。

一期生の時つて、何を作つたらいいかもわからん中で、全部自分たちが作れるつていう、面白さがあつて、立命館守山を選びました。ただ、大変なこともあつて、全部自分たちで決めなきゃいけないし。何かを決めたら決めたで、決められたことは見られるし、思い通りに行かないこともあるし。みたいなことも多くて、体育祭は、悔しかった思い出となつていますね。ただ、最後に総団長の挨拶みたいなのを体育祭の時にさせてもらつて、その時に団関係なく、応援してくれましたし、他の団の生徒からも「私が総団長でよかったです」みたいなことも言つてもらえたのは今となつては、良い思い出かなと。そういうリーダーシップを発揮する場つてなかなかね、限られてましたから、悔しい思い出の中にも、非常に貴重な経験だったのが一個目の思い出ですかね。多分それに紐づいて文化祭も同様に印象に残っています。体育祭で色々あったんで、意見は聞いた方がいいやろみたいな感じになりました。体育祭総団長やつて、文化祭もとりとめをやることにはならなかったですが、意見を伝える機会はもらえましたかね。さすがに総司会をやる、メインの年間行事の重要な役目を私が担うというのも変な話にな

り、他の人にお任せしました。その代わり、文化祭一日前に前夜祭をやることになったんで、前夜祭の司会は私の方で任せてもらった。前夜祭をやる中でも、色々意見は出せたんで、「こうじゃせんか、ああじゃせんか」みたいな感じで。文化祭自体は先生方や学生とも和気あいあいできたと思つてます。あと、今はわかんないですけど、高三は絶対に劇。

—そうです。今もです。

それつて、あれですよね、高校の横の市民ホールでやる。

—そうですそうです。

—そうそうそう、その時の私たちのクラスは、アニーつてわかります。

—わかります。はい。

アニーをやつたんです。でも、アニーはね。その、全体の総司会とか、前夜祭とかは問題もなく成功しましたけど、その、アニーのクラスは準備期間中に主役級の友人が言い合いになりましたね。主役となる男の、俺の友達と、その主役のサブのもう一人の、その女友達が、文化祭の一週間ぐらい前かな、に、急に喧嘩して。二人から電話かかつて、はは。なんかもう「あいつとは一緒にできへん」みたいなことになつてつて。いや、こつち前夜祭の準備をしてるのに大変なんやけどつて思いながらも、解決に向けて話を聞いていました。今となつてはね、些細なことが原因で笑えるんですけど、当時は焦っていましたね。楽しかったですけど、当時は冷や汗をかいた思い出があります。あと、体育祭や文化祭を除くと、部活ですかね。部活やられてるんですつて。

—やつてます。吹奏楽部です。

吹奏楽！ あ、でも。先生も私の時から、変わつてるか。

—曾根先生です。

ああ曾根先生ですか。曾根先生はね、個人的に印象深く、彼が私のこと覚えてるかわかんないですけど。インタビューとは関係ないけども。音楽の授業の時に僕の友達が横でガム食いながら音楽の授業を受けて、ははは。それ自体それが良くないんですけど、大体こういうのってバレへんかなと思うんですけど、曾根先生は、一発でガム食べているのを見つけて。ははは。「お前今すぐ出せ」って。最初、友達も「出せ」って何のことかわかってなくて。そのメガネの横にいるやつやって。メガネは僕のこと、ガムを食べてたのを当てたという記憶だけが残ってます。ははは。部活の話に戻すと、部活やそれ以外の私生活も厳しくみられていた。今も言われるかもしれないけど。道で横並んでるだけで、当時は立命館守山に電話が入ってました。他にも守山駅の前で、駅のホームのところに集まって喋ってたら、迷惑だっていう電話もありました。他にも部活の合宿の時に、後輩がちよっと悪ふざけして、先輩だけ怒られたり、練習試合がおわってから学校に戻って練習させられたりとか。今となつては自分たちの振る舞いが良くなかったのが原因だとも思えますが。当時はね、理不尽やと思ってたし、「くそっ」って何回も思ったこといっぱいあるし、部活やめたいかと思ってた。ただ、社会人になれば、もっと理不尽なこともあるんで、そういう忍耐はつきましたし、部活動での経験は今となつては活きているのを、卒業して十年後ぐらいに気づきましたかね。これが在学中のエピソードで、二つ目に印象に残ってます。

—ありがとうございます。一期生で入学したことによる経験はそういう感じですか。

そうですね。これらが高校を通じて、記憶に残ってるかもしれないですね。やつぱり、一期生って結局後にも先にも一回しかないんで、その高

校の文化を作っていく立場にあるかなと。先生からも、「君たちは一期生だから」って、よく言われる。それは高一の頃から言われてますし、もちろんその（女子校の）先輩方がいらっしゃったとはいえ、特に男子生徒の場合はすぐに立命館守山って分かってしまうので、なんかちよつと素行が悪いというか、地域の方からすると、なんか違うな、嫌だなって思われたら、すぐ電話がかかったりするんで。なんか人に見られるっていうっていうのは、指摘される中で、すごい気を付けてたかもしれない。最初は、めんどくさいなとは思ってましたけどね。あとは先生ともすごい仲はよくさせてもらってたかな。特に高三の時とか、本当、高校三年生の学年団とは、仲良くさせてもらったと思います。

—あの、さっき体育祭の総団長を引き受けられたって聞いたんですけど、それまであんまり人前に立ってないって聞いて。私もあんまり人前に立つタイプじゃなくて。体育祭の総団長を引き受けて人前に出ようと思った理由とかってありますか。

一つは、「バスケ部でやろう」っていう、「ノリ」だった。正直、勢いだと思う。それまで人前にあんまり出ることはなく、何かをやるときの十人のうちの一人とかみたいなことはやったことあったんですけどね。総団長になるってことは、本当に自分一人しかいないですから。そういう経験はやったことがなかったんで、勢いとその場のノリだけでやることになりました。その後、なんか、こういう経験をする、吹っ切れたんですよね。今まではね、何百人の前で喋ることってほぼないですし。後にもなかなかないですけども。さっきも浅井さんがおっしゃったように、「人前でやるタイプじゃない」、私もそういうタイプだったけれども、やってみたら案外なんとかなるし、総団長やって決めた瞬間、後には戻れないってなってるんで、どうにかしなきゃいけないっていうの

もありました。こういう経験を通じて大学、社会人になっても、今どちらかという表に出て、喋る方になったと思います。今となつては、質問も周りの誰もしてなかったら、先にするタイプになりました。高校生の時はそんなこと思わなかったんですけど、今となつては高校生の総団長がいいチャレンジになって、やってみる価値はあるかなと。逆に、年を取って、それこそ十八歳じゃなくて、二〇とか三〇代とかになつてから新しく初めて人前に出るといった人と、若いうちにやつてる人とは、違いが出てくると思う。若い頃から前に出ていなくて、三〇代後半とかで人前に立つと、キョロキョロする人も見たことがあるし。逆に高校生の時だったらね、「頑張れ」、という気持ちで見てもらえる。高校生の時は、俯瞰的には思えないけど、ちょっとこう、視点を變えてるのは一つある。今となつては総団長をやつて良かったかなとは思っています。ただ、当時はノリでした。一〇〇パーセント。

＊

今、高校生活を思い返すと

―高校時代を振り返って強く思うことはありますか。

はじめに、親に感謝ですよね。親が、私よりは早く起きて、お弁当を作ってくれてましたし、朝ごはんも作ってもらった。当時はありがたうって、気持ちまではたどり着けてなくて。すごいなと思つてましたけど、私も結婚もして、子供もできて改めて振り返ると、考えられないですね、ははは。早い時間に子供のために起きて、朝ご飯をちゃんと作つた後にお弁当作ってるわけですから。もう、頭が上がりません。本当に。

―お母さんとの高校時代の思い出とかつてありますか。
私、三人兄弟の長男なんですけども、ずっと妹弟も、ほぼお弁当作っ

てもらつてましたし。でも、私が高校の時に、母親が入院しなきゃいけない時があつたんですね。そんな時、数週間だけお弁当作ってもらえなかったんですけど、それがすごい大変だった。当時は、ありがたみって、あんま感じないんですね。ご飯を作ってもらつて、居て当たり前だし、洗濯してもらえりし、次の日には部活の用意もあるし、体操服洗ってもらえりし。全然それでもいいと思うんですよ。それでいいと思うんですけど、どんどん大人になつて、一人暮らししてから、そのありがたみをより感じるようになりました。更に、一人暮らしから結婚を経て、子供が生まれてからつていうのは、更にありがたみを感じるようになったと今となつて思う。あとは、雨の日とかも駅まで送ってもらつてたりもしたんで、もちろんバスで行く日もありましたけどね。寝坊した時とかは、やつぱ送ってもらいましたし。そういう当たり前にやつてもらつていたことをやつてもらえない期間があるというのは、印象に残っています。母親だけじゃなくて、父親にもやりたいことやらせてもらったんです。元々、立命館守山に行くなんて思つてなかったと、卒業してから言われましたけども。一期生のところに。進学するなんて、そんな高校に普通ないし。これから一期生ですつていう高校に自分の息子を行かせるのも、ほんまに大丈夫かつて思つてたんちゃうかな。ただ、私が行きたいつて言ってるから行かせてもらったとかつていうのは、子供の意思を尊重してくれて、ありがたいなと思つてます。当時あんまり、ありがたいつて思つてなかったかもしれないですけどね。ははは。

―学校の話とかは家でされてたんですか。

してましたね。仲は良かったんで。こういうことがあつたとかはね、部活の愚痴も含めずつとしてた方かなと思います。だから森園先生や、小森先生のことだつて、名前もわかるし。友達の名前もなんか仲良かつ

た主要なメンバー分かったりするんで、話はさせてもらってましたね。

―高校生活で一番印象的だった先生っていますか。

森園先生かな。高校三年生の時の担任の。今多分だいぶ偉くなってますけれども、私が高三の時に前の高校から赴任してきた時で。当時はだいぶ若くて、本当に生徒想いの素敵な先生だったなと思います。たまに連絡を取ってて、先生が東京に来る際、時間が合えば飲みに行くくらい、仲は良くさせてもらってますかね。もちろん、部活の小森先生とか川端先生もすごい印象に残ってます。今いらっしゃる先生って考えれば、あと田辺先生も。今は偉くなっていると聞いてるんやけど。なんか私からすると、時間の流れとともに、昔の先生方が昇進されていることに、時が経つのが早く、感慨深いなと思っています。

―あ、森園先生って今副校長の方ですか。

え今、副校長なんですか。

なるほど。偉くなってるんですね。存じ上げなくて。

―高校生活で尊敬していた人とか居ましたか。先生とかでも。

そう、同級生は、薬学部に進学した同期や勉強を一緒にしている同級生は尊敬していました。私より学年順位が上だった友達で。結局、私の代って、七人薬学部に行って、私以外全員女子やったんですよ。そんな中でも勉強も教えてくれたり、逆に学んだことを説明する機会をくれました。自分は、あんまりそういう、人前に立つけど、説明するのって、上手ではなかったんですけど。色々教えてもらって、人への説明の仕方や勉強の仕方とかは、参考になったのを覚えてる。今は、あんまり連絡しなくなっちゃいましたけど、当時の薬学部へ立守から行った同級生は、みんな努力家でした。自分も皆のためになろうと、大学行った時に、必要な情報を共有するとかっていうのはするようにしたのはあるか

もしれないですね。

先生でいえば、森園先生ですかね。さっきも言ったように生徒思いで。それまでも親身になってくれる先生はいたかもしれないけれど、森園先生は、特に話を聞いてくれた。進路等がある中、高三になってすごい親身に相談乗ってもらいましたし。だから、ターニングポイントじゃないですけど、森園先生がいたから今の自分がある部分は大きかったかなと。当時はなんでも相談してる感じでしたね。勉強のこともプライベートのことも含めて、なんか色々。先生っていう感じもなくて、ちょっと年上の、よく相談乗ってくれるお兄さんみたいな感じの方が強かったかもしれない。

*

高校時代から今の生活への繋がり

―今働かれている企業はどうやって見つけましたか。

今いる企業は自分から転職サイトを通じて探して、転職しようと思って、自分で見つけて受けて、これも結局ご縁があつてですけど、面接して採用していただいたって感じです。

―すごいです。有名なところなんですよね。

今の会社は、有名ですかね。規模は大きく、コロナワクチンとかも作ろうとしていたし。本社は大阪にありますが、私は今東京に勤めています。

―高校とかでの経験が就職で活かしたと感じた思い出はありますか。

そうですね。面接の時に、高校の思い出を喋るってことは、中々なかったんですけど、やっぱり、高校生活や部活を通じてやってきた、礼儀、忍耐は確実に活きていると思います。あとはさっき話した、リーダーシップ。別に高三の、総団長の経験が仕事に役立っているとは思わないで

すけれども、リーダーシップを持ってやろうと思ったきっかけっていうのが、やっぱり高校三年生なんで、主体的に振る舞うきっかけになってるなどは、思いますね。

―高校生時代に戻りたいって思うことはあるんですか。もしもう一度戻るってなったらどんな瞬間に戻りたいですか。

はい。戻るならまた体育祭の話も言って申し訳ないんですけど、体育祭の時に、戻りたいですね。自分が最後スピーチとして締めくくった後に、恥ずかしながら、泣いちゃって。その後、人生で初めて唯一胸上げしてもらってるんですよ。みんなの前ですごい高く。あの瞬間は今までしてきた努力が実った気がして、忘れられないので、その瞬間には戻りたいかもしれないですね。もちろんね、他にもいっぱいありますけど、体育祭の話は、すごい印象に残ってます。――いいですね。ありがとうございます。

【感想】

今回の聞き書きを通して、一期生としてのエピソードを聞き、この立命館守山の成り立ちを学びました。先輩方が築いてくださったからこそ今の生活があると感じました。また、高校生の頃から挑戦し責任を果たした経験が、その後の人生に活きていると知り、自分にとっても学びとなりました。普段の学校生活も、親や先生など多くの人の支えで成り立っていると改めて気づき、今ある生活をよりありがたく思えるようになりました。



左…語り手 古藤諒さん 右…聞き手 浅井優